

急ぎ足のクローニクル

多摩市長

わたなべ さちこ
渡辺 幸子

昭和43年4月 晴れて中央大学

法学部政治学科に入学しました。

長野県松本市から上京した私には、神田駿河台校舎は、広くはない校庭に4万人の学生がひしめくコンクリートジャングルでした。

2年から、プレゼミとして「大原ゼミ」に在籍。1年先輩には谷喬生さん（新潟大教授）がいらして、論理的に議論をすることを学びました。

サークルは、公式テニス同好会「わかもの」に所属していました。文京区の茗荷谷テニスコートをベースに、杉並区の松が谷コートにも通いました。夏休みは、山中湖で合宿。大根畑にボールを拾いに行ったものです。

政治学会にも席をおき、志津先輩が所属する佐竹ゼミに入入りする機

会をいただきました。富士山麓での合宿にもついて行きました。

2年生の4月。大学校舎にはロックアウトで入れず、新宿御苑でクラス討論会がありました。季節はずれの大雪に桜の花が凍えていた情景が忘れられません。

昭和47年、ニュータウン建設が始まったばかりの多摩市の発展性に惹かれて多摩市役所に就職しました。女性も法的には平等、大学進学時に考えた福祉の仕事ができるかもしれないと考え、地方公務員を選択しました。

昭和57年、多摩ボランティアセンターを立ち上げ、そこで、中大「青い鳥」の福祉に真面目に取り組みメンバーと出会いました。

平成5年から平成10年の5年間、多摩センターにあるパルテノン多摩の事務局長として、人事、予算、評

議員会、理事会対応など、ミニ市役所を経験することができました。

平成14年2月23日、鈴木前多摩市長が収賄罪で逮捕されました。

意外なことに、何人もの市民の方、議員の方から、市長に立候補するよう、とのお話をいただきました。

3月31日夜、30年間、市職員として様々な場面でお世話になった方々に相談申し上げ、後援会の中心になっていただけるとなりました。藤本哲哉法学部教授に後援会会長をお願いしました。

私は、私を支えて下さる市民の方々を中心に、お金をかけない手づくり選挙をしました。企業からの献金はいただかず、一人1万円以内の寄付と自己資金、公費補助で選挙を行いました。

選挙中、多くの中央大学OBの方々に応援していただきました。43

年卒業の小林満起子さんの地域ネットワークには目を見張りました。

平成14年4月21日 多摩市長に就任。早速、43年卒業の関根靖弘弁護士に教育委員、酒井由美子法学部助教授に都市計画審議会委員に就任いただきました。これからも、母校にお世話になります。

中央大学が事務局の「学術・文化・産業ネットワーク多摩」との連携にも、大いに期待しています。

「多摩市はいい町だ」と、おっしゃっていただけると、市民がともに支え合う夢のある街の実現をめざして前進します。

(昭和47年法学部卒)

